踏み出そう新たなステージへみんなの力が新渡戸の未来

新渡戸記念 中野総合病院だより

Nitobe Memorial Nakano General Hospital

9月号
令和3年9月1日号

東京医療

住所 東京都中野区中央四丁目59番16号
TEL 03-3382-1231（代） 夜間受付 03-3382-9991
ホームページ http://www.nakanosogo.or.jp E-mail syougai@nakanosogo.or.jp

第387号
発行人／理事長 入江 徹也
発行責任者／渉外･広報課長 仲田 智

パーキンソン病とは？

脳神経内科 部長 融（とおる） 衆太

パーキンソン病は多い病気です

パーキンソン病という名前は知っている方が多いと思います。今回はこの病気について説明しましょう。実はこの病気はとても多く、日本には20万人もの患者さんがいると言われております。年齢とともに患者数は増える傾向にあります。

パーキンソン病は全身病

パーキンソン病は様々な運動症状を引きおこす病気として知られていますが、他にも実に多彩な症状をおこします。運動症状としては、動作が遅い、動きにくい、手足がこわばる、ふるえる、体のバランスがとりにくいなどです。このため、小刻みに歩く、一歩目が出にくい、前のめりになる、転びやすいなど歩行に影響を及ぼします。

運動症状だけでなく、うつ・不安、便秘、もの忘れ、幻覚が見える、痛み、寝言をいう、においが分かりにくい、立ちくらみなど、関係ないように思われる症状が、実はパーキンソン病の症状の一部として現れることから、全身病としてとらえられています。

パーキンソン病は治療でよくなります！

パーキンソン病には20種類以上の薬があります。症状に合わせて適切に治療を行うことで、症状を改善させることができます。一方で、パーキンソン病によく似た症状が現れる病気をまとめて「パーキンソン症候群」といいますが、パーキンソン病とパーキンソン症候群は治療法が違いますので、まずは専門医による正しい診断を受けることが重要です。気になる症状がありましたら、一度脳神経内科にご相談ください。

脳神経内科のメンバー紹介

●当院で働いて15年になります。パーキンソン病や脳梗塞を多く診させていただいており、認知症学会専門医として、もの忘れ外来も担当。地域の皆様のお役に立てるよういつでもフルスイングで頑張ります。（融 衆太）

●神経疾患の診断は難しいことがありますが、診断、治療まで完結できることが当院の目標です。不幸にしてお亡くなりになった場合にも、お許しをいただければ脳を顕微鏡で検索させていただき、生前の診断を確かめてご報告するように努めています。さらに全国に先駆けて昨年開始した「新渡戸グローバルCPC」というWeb検討会で、地域、全国の先生方ともこうした知見を共有させていただき、将来に活かすことをめざしています。（内原 俊記）

●当院に赴任して6年目、医師としては23年目になります。当科は、すべての神経疾患への対応はもちろん、様々な内科疾患への対処も含めた総合内科的な側面も有しており、一般病院としては非常に多い総員7名で日々、多数の患者さんを診療しています。私自身は、多発性硬化症／視神経脊髄炎をはじめとする免疫性神経疾患が専門。これらの疾患の重要な特徴は、治療介入が可能かつ有効なことが多く、早期の診断と適切な治療を行うかどうかでその後の経過が大きく変わる点です。我々は、大学病院と同等かそれ以上の豊富な診療経験を有しており、最先端の知識に基づき、迅速な診断と適切な治療を提供します。神経疾患でお困りのことがございましたら、ぜひご相談ください。（横手 裕明）

●今年度から火曜･木曜の外来、月曜の電気生理検査も担当。神経内科領域の疾患全般を診させていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。（丸岡 浩之）

●神経生理機能検査で正確な診断をこころがけます。（青山 尚史）

●皆様こんにちは、4月から勤務しております。まだまだ未熟ではありますが、患者さんの心に寄り添った丁寧な診療を心がけます！　どうぞよろしくお願い致します。（砂生 奈那美）

●神経内科医としてまだまだ未熟ですが、明るさと親しみやすさをモットーに、困っている患者様の問題解決に向けて頼もしいチームのもとで日々精進しております。珍しい変性疾患、難病から脳卒中、一般内科まで様々な症例を経験し、学びの多い日々です。看護師さん達とともによりよい診療ができるよう努力していきたいと思います。（渡邊 由衣）

新渡戸記念中野総合病院 がん哲学外来休診のお知らせ

がん哲学外来は、当面の間、休診とさせていただきます。
ご不便等をおかけして申し訳ございません。
再開につきましては、誌面とホームページにて
ご案内いたしますので、ご了承ください。

当院ホームページ内【新渡戸稲造記念センター がん哲学外来】に、
樋野 興夫センター長による『言葉の院外処方箋』が連載されています。
ぜひご一読ください。

ホームページ http://www.nakanosogo.or.jp

いきいき体操 10 ストレッチ：足首編

リハビリテーション科 技師長 柳澤 正也

いわゆるアキレス腱を伸張する体操です。歩いているだけでは自然に足関節の可動性が低下してしまいます。日本の生活様式が和式から様式に変わることで、我々にとって生活に優しい環境となりましたが、その分、体の柔軟性は低下しています。今回は座ってできる「ふくらはぎ」の筋肉の伸張を、タオルを用いて行う体操を紹介します。

まずは、1日3回で。1回の目安は5分程度から始めてみましょう。例えば、朝は日常生活で体を動かした後、昼は空き時間、夜は就寝前などと日課として時間を決めると習慣となり継続しやすいです。

ご注意！ ストレッチしてもいいかな、と心配のある方は、必ずかかりつけ医または当院整形外科に受診してから行いましょう。

足首を上げるストレッチ① 10回×2セット

膝を曲げた状態で足にタオルを巻いて、自分のほうに引っ張ります。

足首を上げるストレッチ② 10回×3セット

膝を伸ばした状態で足にタオルを巻き、自分のほうに引っ張ります。

膝を曲げないように！

組合員の皆様へ

東京医療生活協同組合は、機関紙「新渡戸記念中野総合病院だより」を通して私どもの活動を皆様にお知らせして、皆様との交流を図って参りました。このたび、この活動をさらに発展させ、皆様からのご意見を積極的にお聞きして、当生協の運営に役立てることといたしました。

つきましては、当組合に対するご意見、ご要望を郵便、メール、またはFAXにてお送りくださりますようお願いいたします。なお、ご意見をお送りいただきます際には、ご氏名に加えて必ず組合員番号（組合員証に第〇〇〇〇〇号と記載されています）をご記入いただきますようお願いいたします。

宛先

東京医療生活協同組合渉外・広報課

住所 〒164-0011 中野区中央4丁目59番16号

メール syougai@nakanosogo.or.jp　FAX 03-3381-4799

9月の小児救急体制

9月1日から30日までの、準夜間小児初期救急医療体制は下記の通りです。なお、事情により休診になる場合や、医師の変更もあり得ますのでご了承ください。ご不明な点は、下記夜間受付にお問い合せ願います。

＊血液検査、点滴等の処置、入院等を必要とする場合は他病院を紹介します。

受付時間　毎日午後6時30分～午後9時45分

診療時間　毎日午後7時～午後10時

夜間受付　☎03-3382-9991

9月準夜間小児初期救急担当医

日	月	火	水	木	金	土
			1 由良 明彦	2 縣 一志	3 清水 泰岳	4 保崎 明
5 蘇 哲民	6 小須賀 基通	7 山岸 千尋	8 久利 由美	9 大野 幸子	10 清水 泰岳	11 菅波 佑介
12 亀井 宏一	13 小須賀 基通	14 山田 正輿	15 粟津 緑	16 縣 一志	17 清水 泰岳	18 菅波 佑介
19 蘇 哲民	20 亀井 宏一	21 髙梨 栄	22 佐和田 哲也	23 縣 一志	24 蘇 哲民	25 菅波 佑介
26 清水 泰岳	27 小須賀 基通	28 細谷 直人	29 村杉 寛子	30 大野 幸子		

生協組合へのご加入のお願い

新渡戸記念中野総合病院の母体である東京医療生活協同組合は、「消費生活協同組合」の法人です。この生活協同組合は、組合員の皆様からの出資金が経営の基盤になっています。東京都内にご住所がある方、あるいは東京都内の企業に勤務されている方であれば、どなたでも組合への加入の資格があります。

組合員にご加入いただけますと、入院されて個室に入られた場合、室料差額が1日あたり500円引きになります。また、健康管理科にて日帰り人間ドックを受けられる場合は、3,000円引きになるといった特典があります。

組合に加入するには、出資申込書に出資金（1口200円、5口1,000円より）を添えてお申し込みください。

なお、すでに組合員になられている方は、 随時増資が可能ですので、4番窓口までお申し付けください。

また、組合員の方でご住所等にご変更のある場合は、担当係までご連絡くださいますようお願いいたします。

担当 新渡戸記念中野総合病院 渉外・広報課
☎03-3382-1231（代）

新渡戸の言葉

「こんなに熱心に、テレビを見た事は、はじめてだ。オリンピックに、特に關心があつたわけではなかつたので、これは、自分にも意外な事であつた。オリンピックと聞いて嫌な顔をして、いろいろ惡口を言つてゐた人も、始つてみれば、案外、テレビの前を離れられないでゐるかも知れない。」（昭和39年11月 小林秀雄「オリンピックのテレビ」より抜粋）。物心つく頃の1回目はよく覚えていませんが、未曾有の東日本大震災10年後の2回目、TOKYO2020＋1のオリンピアン達の戦闘が終わりました。

ここ数週間の医療現場は大嵐で戦場のようです。7時間以上救急車から105件探しても受入先が見つからない事例も経験しました。当院では重症一歩手前、COVID-19中等症IIの一部（酸素2L）までの受入基準でコロナ診療を継続中ですが、感染力・病態進展の速いδ（デルタ）株の猛威はすさまじく、コロナ班の治療も従来のヘパリン／レムデシベル／デキサメタゾン3剤にバリシチニブを加えた4点セットで治療する方も増えてきました。都庁コロナ調整本部から重症・準重症患者の受入要請が毎日悲鳴のように届き、ICUの無い当院では多くを断らざるを得ませんが、最近の受入患者の管轄保健所が中野区・杉並区は勿論、豊島区、練馬区、板橋区、渋谷区、世田谷区、北区、足立区、台東区、品川区、大田区など都内12区に及び、中等症を担う東京都災害拠点病院としての役目を粛々と果たしています。生き残りをかけた新型コロナとの戦闘の只中ですが、新病院建設の旗印は今も掲げ続けています。

新渡戸記念中野総合病院副院長　**山根 道雄**

慶長五年（西紀一六〇〇年）の今日は、天下分け目の関ケ原の大合戦ありし日である。其後二百余年の泰平続けり。吾人の一生にも必ず命を賭して戦ふべき時は免れ難い。其の日は今日か明日かと待たずとも、将に眼前に迫り、時々刻々動員令が行はれ、既に戦闘が開始せられて居るなり。

『一日一言』九月十四日

新渡戸 稲造